

解決 トラブルシューティング

😊 今なら間に合う！ 😞 間に合わない？

(タキイ種苗開発部)

野菜は一つとして同じ生育をたどるものではありません。低温・高温、乾燥・過湿、曇天・日焼け、多肥・肥切れetc.、一度バランスを崩した野菜は、トラブルとなってその症状を現

します。そこから対応できることもあれば、もはや手遅れな場合もあります。このシリーズでは回復可能な事例はその対処例を、無理な事例は次回対策等を紹介するものです。

今号のテーマ 冬春栽培のトマトに 灰色かび病が発生したら

😊 対応可能な処理 😞 対応不可能

●ケース：冬春トマトに灰色かび病が発生した

対策

- 😊 発病初期なら、農薬散布とハウス内の環境整備で進行を止められます。
- 😊 ハウスなどでは紫外線カットフィルムを使うことにより、発生を抑制できます。資材を有効活用しましょう。
- 😊 施設栽培では換気を十分にとり、乾燥条件にすることで被害を軽減できます。

◎原因

灰色かび病は、特に果実への被害が最も大きい施設栽培特有の病害です。冬季に多重被覆栽培し、施設内が多湿で太陽光線が少なくなることにより多発します。また、密植したり、チッソ過多で茎葉が繁茂すると発生を助長す

るので気をつけましょう。

◎対処方法

- ①農薬散布：罹病部位にしっかり薬液がかかるよう、治療剤を散布します。
- ②罹病部位の除去：罹病した葉や果実は、ほかの葉や果実に空気伝染するので被害が拡大しないよう圃場の外に持ち出し処分します。
- ③ハウス内温度設定：低温・多湿条件で進行しやすいため、最低気温12℃以上を確保します。

◎予防方法

灰色かび病は一度発生すると、完治が難しい病害なので予防が大切です。

- ①葉先枯れの防止：トマトは葉先枯れ部分から灰色かび病が発生することが多く、葉先枯れ防止が最も効果的な予防になります。葉先枯れはカリウム欠乏で発生するため、カリウムの十分な供給を心掛けましょう。「ホストマト」「ヨーゲン」シリーズの葉面散布、「トマト元気液肥」の施用などが効果的です。
- ②草勢の維持：着果負担などで草勢が低下した株には、灰色かび病が発生しやすくなります。追肥や灌水は遅れないよう肥培管理に気をつけて、草勢を維持します。
- ③着果後の花弁除去：着果後に花弁が

付着したままだと、古い花弁から灰色かび病が発生し果実にも広がります。肥大開始後の果実に付着している古い花弁はできるだけ取り除きましょう。

- ④ホルモン(トマトーン)処理方法：低濃度での大量噴霧、夕方の処理などはホルモン液が乾かずに多湿を招き、灰色かび病発生の原因となります。適切な倍率で夕方には液が乾くように処理を行いましょう。

灰色かび病 (原図：我孫子和雄)



← 葉の腐敗。



← 果実への発生。



「ホストマト」は従来のリン酸よりも葉面からの吸収が速く、吸収効率のよい亜リン酸の葉面散布剤で、リン酸・カリウムを同時に補給できる。



→ 通常液肥と交互に「トマト元気液肥」を施用することで、吸収量の多いカリを過不足なく供給することができる。

商品別チッソ・リン酸・カリ成分比較表

商品名	成分		
	チッソ	リン酸	カリ
ホストマト	0	31	25
ヨーゲン	30	10	10
ヨーゲンハイパワー	0	33	22
トマト元気液肥	0	5.5	8.0